

国立国語研究所学術情報リポジトリ

パネル・ディスカッション

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 角田, 太作, 片桐, 真澄, 金, 廷珉, ブガエワ, アンナ, 河内, 一博, ホイットマン, ジョン メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000912

司 会◆ジョン・ホイットマン(国立国語研究所・言語対照研究系)

パネリスト◆角田 太作(国立国語研究所 教授・言語対照研究系長)

片桐 真澄(岡山大学 准教授)

金 廷珉(慶一大学 助教授)

アンナ・ブガエワ(早稲田大学 准教授)

河内 一博(防衛大学校 准教授)

ホイットマン これからパネルディスカッションを開始します。司会は引き続き、私、ホイットマンが務めます。よろしくお願いします。

今日は長い時間にわたってご清聴いただき、ありがとうございます。聴衆の方々から幾つか質問をいただきましたので、その質問から始めたいと思います。まず角田先生に質問が幾つかあったと思います。よろしくお願いします。

角田 まず、こういうご質問をいただいています。「人魚構文の名詞の部分に表れる名詞にはどのようなものがありますか」というご質問です。この共同研究で、最終的に20ぐらいの言語について人魚構文が見つかり、その名詞を分類すると、大まかにこういう分類ができます。

まず、日本語で言う「花子さんは明日大阪に行く予定です(つもりです、計画です)」という「意志・予定・計画」を表すグループがあります。

次が、「外では雨が降っている模様です」「外で

は雨が降っている様子です」という、エビデンシャルというか、「これこれこうだな」と判断する「証拠」のグループがあります。

もう一つが、「花子さんは今本を読んでいるところです」、現在進行などの、いわゆる「アスペクト」があります。

もう一つは、例えば「私はもう学校へ行く時間です」という、「時」を表すものです。

それから、こういうものがあります。例えば「われわれはここに政府の決定に抗議するものである」という、「ものである」です。「文体を少し硬くする」わけです。あるいは「心からおわびする次第です」という、「次第」です。

いろいろ共同研究で分かったことは、どういう名詞が表れるかということ、「意志・計画」を表すグループと、「模様・様子」を表すグループ、「進行」などを表すグループ、「時間」を表すグループ、「文体的な効果」を表すグループに分かれました。

片桐先生のご発表にあったタガログ語で、「顔」が「模様・様子」を表すとありました。アイヌ語では、名詞の四つほとんどが「様子・模様」のグループでした。シダーマ語でも「様子」というような名詞が出ました。いろいろな言語で、人魚構文の名詞のところに、どういう名詞が表れやすいかということを見たら、傾向が見えてきました。

一つが、非常に一般的な漠然とした意味を表す名詞のグループ、「もの・こと・ところ」です。学生、あるいは机や椅子など具体的なものではなくて、一般



的に非常に漠然とした「もの・ところ・こと」という総称名詞が、非常にしやすいことが分かりました。

もう一つが、「模様・様子」を表すグループです。これも結構多くて、今日の発表では、ほとんど全部にありました。アイヌ語でもそうですし、シダーマ語でもそうですし、タガログ語でもそうですし、韓国語もそうです。それが大きいグループです。

それから、例外的にこんなものがあったのです。「超人間」グループという名前を付けました。ヒンディー語では「ワラー」という言葉は、語源的にはサンスクリットの「守護神」だそうです。例えば、「花子さんは明日名古屋に行く守護神だ」「花子さんは明日名古屋に行くワラーだ」と言うのですが、それは「明日名古屋に行く予定だ」ということだそうです。それから、シベリアのユカギール語で「ベン」という名詞があり、語源的には「超自然の神様」という意味らしいのです。「明日花子さんは名古屋に行く超自然の神様だ」ということで、「明日名古屋に行く予定です」ということを表すわけです。

というわけで、「どのような名詞が表せますか」という質問ですが、「予定・計画」などを表す名詞のグループ、「様子・模様だ」のグループ、「進行している、～しているところだ」のグループ、それから「これから学校に行く時間です」の「時間」のグループ、そして「文体的」なグループがあります。具体的にどのような名詞が出やすいかというと、非常に一般的な総称的なものを表す名詞と、模様・様子を表すものが非常に多い傾向がありました。

ホイットマン ありがとうございます。次に司会の私から、片桐先生に一つお聞きします。一番初めの角田先生のお話にありましたように、調査した言語の中で、結果的に10個ぐらいが人魚構文を示す結果だったかと思います。

角田 少し似ているものも含むと、20ぐらいまで行くのです。

ホイットマン 20ぐらいですか。今日、お話いた

いた人魚構文を持つ言語は、タガログ語を除いて全ていわゆるSOV、述語・動詞が文末に来る言語ですね。日本語も、アイヌ語もそうですし、シダーマ語もそうです。その中で、フィリピンのタガログ語だけ述語が文頭に立ちます。文が動詞から始まります。

片桐先生がご存じの範囲で、ほかにフィリピンの言語、あるいは台湾原住民の言語で、タガログ語と同じ語順で述語から始まる言語で、人魚構文がある言語はあるでしょうか。まだどこまで研究されているか分かりませんが、いかがでしょうか。

片桐 私の知る限りでは、まだタガログ語しか調べていませんので、ないのですが、恐らくフィリピンの言葉は、述語が最初に来る言語が全部と言ってもいいほどですから、セブアノ語などの言語にもあるかと思われます。ただし、調査していないので分かりません。すみません。

ホイットマン ありがとうございます。突然お聞きして申し訳ありません。

次に、金先生に聴衆の方から二～三つ、ご質問があったかと思えます。よろしくお願ひします。

金 私のところには、「日本語を学習する韓国話者に日本語の人魚構文を教えるときに、どのようなエラーをすることがありますか」という質問をいただいています。今日の私の発表では、人魚構文の名詞の部分で普通名詞と形式名詞の方に分けたのですが、確かに普通名詞の場合、例えば日本語の



「模様」「予定」「計画」といったような漢字の単語の場合は、韓国語でほとんどそのまま対応するので、その場合は韓国語話者にとってはそんなに難しくはないと思います。

ただ、形式名詞については、今日は詳しくお話しすることができませんでしたが、例えば日本語の「の+だ」、といういわゆる「のだ」文に韓国語の「것/kes」+「이다/i-ta」で「것이다/kes-i-ta」という文が対応するとお話ししました。ただ、形は似ていますが、その詳細を見ていくと、必ずしも一対一で対応しない場合があります。このように、そういう形式名詞の方は、普通名詞の場合に比べて、少し難しいのではないかと予測できます。

この質問を受けて気付いたのですが、私は今日、韓国語の場合、連体形の種類と名詞との共起関係にいろいろ制約がある、意味的な違いがあるという話をしました。このように日本人が韓国語の人魚構文を習得する方がむしろ難しい、またはエラーが発生する可能性が高いのではないかと思います。

ホイットマン ありがとうございます。また私から質問です。韓国語を見ても、日本語を見ても、それからタガログ語の中の一つの例もそうだったと思いますが、人魚構文の名詞の部分の述語名詞が、借用語といいますか、確かタガログ語の前にはサンスクリット語からでしたか。韓国語も、借用語という意識はどこまであるか分かりませんが、やはり日本語と同じように漢語が多いと言えるでしょうか。

金 漢字語の方は、ほとんど対応していたのですが、和語に相当する韓国語の純粋な固有語の場合は、例えば「流れ」というものが日本語では使えるのですが、韓国語ではそれに該当する「흐름 / hulum」が人魚構文では使いにくいことがあるかと思えます。それから、「タイプ」や「スタイル」といった英語から来た単語も、人魚構文の中で使えます。ですから、漢字語が一番優勢で、固有名詞の方はこ

れから調査していかないといけません、英語から来た外来語も使えると思います。

ホイットマン ありがとうございます。角田先生、日本語に関しても、英語の借用語が人魚構文の名詞になる例がありますでしょうか。

角田 自動車か何かについて、「この車はこれが何とかのスタイルだ」という例文をあげます。「スタイル」はあります。それから、「タイプ」ですね。「花子さんはいつも～するタイプだ」というように、「タイプ」「スタイル」はありました。

ホイットマン そうですか。ありがとうございます。

角田 それから、借用のことで少しいいのですか。実は共同研究に小林正人先生に入っていたいて、インドのドラヴィダ語族というグループの、クルフ語という言語を研究して、その人魚構文を調べていただいているのです。インドの言葉は大きく分けて、北部はインド・ヨーロッパ語族という英語、ドイツ語、フランス語の仲間の大きい語族、南部はドラヴィダ語族という、全く別の二つのグループがあります。小林先生が研究していらっしゃる言語はクルフ語という、南部の方のドラヴィダ語族の言語で、北部の言語のヒンディー語などとは全く関係ない言語なのです。小林先生が調べましたら、クルフ語に人魚構文があって、ここに出てくる単語は、なんとサンスクリットあたりの借用らしいのです。これも借用の例ですね。

ホイットマン そうなのですか。ありがとうございます。さらに研究を深めていただくよう、ぜひお願いしたいところですね。

次に、ブガエワ先生に、アイヌ語と日本語の関係に関して幾つか質問が出たようですが、その中の一つをお願いします。

ブガエワ 「母語に人魚構文を持たない人が、人魚構文を持つ言語を学ぶ場合、あるいは逆の場合に、学習上の障害は大きいのか」ということです。

一部、発表の中で触れたと思うのですが、日本語を学ぶに当たっても、アイヌ語を学ぶに当たっても、

人魚構文は非常に難しいです。なぜなら、少なくともペテルブルグや日本で受けた日本語教育の中では、それを連体修飾構文として分析しているためです。名詞に対して関係節として分析しているので、これを全く同じように英語や日本語に訳そうとすると、非常に難しいです。訳だけの問題ではなく、そのように理解しようと思うと、なかなか頭にきれいに入りません。

ですから、角田先生のご研究で明らかになったように、単文構文として分析すると、まだ分かりやすいです。留学生などにも、そのように教えた方がいいのではないかと思います。つまり、訳す場合は、例えば助動詞や、英語のplanではなくて、going toなど、助動詞を使うと、まだ分かりやすいです。ロシア語もそうです。

ホイットマン ありがとうございます。今のご質問は、ブガエワ先生と私あてだったのですが、今のブガエワ先生のお答えと全く同意といえますか、同じような経験があります。ただ、一つ言えることは、人魚構文の場合には、その名詞部が大和言葉ですね。日本語固有の「～するつもりだ」「わけた」です。「ようだ」は、本当は大和言葉ではないですが、日本語固有の単語として意識される語の場合には、ロシアにおける日本語教育は分かりませんが、英米の国では名詞構文、連体修飾構文として教えません。やはり区別します。

あるいは、ブガエワ先生がおっしゃったように、連体修飾の構文として教えるのは漢語です。海外の日本語教育では、後者の「～する予定です」などの方は上級か、それぐらいになるまで、あまり見ることがないと思います。ロシアはどうか分かりませんが、「つもりだ」「わけた」「のだ」「ことだ」はすぐに教えますが、漢語で締めるものは、すぐには出てこないというのが、私の記憶ですが、いかがでしょうか。

ブガエワ 高学年までは教えません。

ホイットマン ただ、連体修飾の一種として片付



けることが多いと思います。

ブガエワ 私の経験では、ずっとずっと連体修飾として教えられたのですが。

ホイットマン ただ、「つもりだ」や「わけた」は連体修飾として教えないのではないですか。ロシアはいかがですか。

ブガエワ 少し特徴があるのですが、やはり連体修飾の一種として教えています。

ホイットマン そうですか。ありがとうございます。

今回は大陸が変わりまして、アフリカまで行きます。次は河内先生にエチオピアの言語の多様性に関するご質問があったと思いますが、よろしくお願ひします。

河内 「エチオピアにある86言語の相違点、あるいは一致点はどの程度あるのでしょうか」という質問をいただきました。私も知識が限られておまして、クシ語派ではシダーマ語を研究していますが、カンバータ語とソマリ語等については読んだことがある程度です。セム語派については、アムハラ語とティグリニヤ語のデータを取ったことがあります。しかし、限られた知識しかありません。エチオピアではナイル語派、クシ語派、それからセム語派の言語が話されていますが、これらの類似点はどの程度あるのか、エチオピアという地域による類似点なのか、それともアフロ・アジアという系統による類似点なのかは難しい問題です。

これについては論文が出ていて、1976年のチャールズ・ファーガソン(Charles Ferguson)の“Ethiopian Language Area”という論文が、ベンダー(Lionel Bender)の*Language in Ethiopia*という書物に入っています。この論文でエチオピアという地域の言語の特徴が幾つか挙げられているのですが、例えば/p'/, /t'/, /k'/といった放音や、「修飾語+名詞」の語順を取る等、他の地域の多くの言語でもあるような文法的な特徴が挙げられているのです。これに反論する形で、トスコ(Mauro Tosco)という人が“Is there an “Ethiopian Language Area”?”という論文を*Anthropological Linguistics*に2000年に書いています。

一つ、これはエチオピアの特徴ではないかなと思われるのは、「～言う」というイデオマティックな表現です。例えば *sammi ya* はシダーマ語では「静かにする」という意味で、*sikk'i ya* は「近づく」という意味で、全く無意味な語の後に「言う」(*ya*)という動詞を付けて形成されるイデオマティックな表現があります。他動詞の表現は、doあるいはmakeを表す動詞を使います。エチオピアの言語の特徴と言えるのは、その程度だと思います。詳しくはこの二つの文献をご覧くださいだと思います。

それから、人魚構文については全く分かっていません。エチオピアのリサーチ仲間にも尋ねたのですが、どうやら今のところはないようですけれども、全く分かりません。

ホイットマン ありがとうございます。

次に、角田先生にもう一つ質問をお願いしたいと思います。人魚構文をSOV構文、つまり述語が文末にある構文として、どう扱うかという質問です。

その前に一つ、司会として言い忘れたことがあります。それは「人魚構文」という名称です。所長のお話にあったように、英語のMermaid constructionとなりますが、それは私のお隣の角田

先生が作った名前です。これが、またも日本語から出発して国際的に知られるようになるのではないかなと思う言語現象です。ありがとうございます。よろしくお願ひします。

角田 「文の構造はどういう構造ですか」というご質問だと思います。確かに奇妙な文ですね。例えば「花子さんは本屋さんで本を買う予定です」。普通、私たちが学校で習った文法で言うと、「買う」という述語があって、「予定です」という述語があって、一つの文に二つ、述語があるわけで、変な文ですね。今ホイットマン先生とブガエワ先生がおっしゃったように、これを連体修飾と見るかどうか。例えば今までの研究を見ると、「花子さんは本を買う予定です」は、「花子さんは本を買う」までが連体修飾節で、後ろの名詞を修飾しているという分析があったのです。例えば高橋太郎先生や奥津敬一郎先生、寺村秀夫先生はそういう分析をしていて、ロシアでも日本語教育ではそういう分析を使っているというお話でした。

ところが、高橋先生は後にお考えを変えて、「花子さんは」が主語、「本を」が目的語、「買う予定です」が複合的な述語であるというように考えました。細かく見ると、「買う」という述語があって、「予定」という名詞があって、「です」という述語がある。細かく見ればそうですが、高橋先生は「買う予定です」が全部で複合的な述語と見るのがいいのではないかなと言っています。そういう構造です。私もその考えがいいと思います。

このご質問は、「SOV構造の主語、目的語、動詞と分析するとどのようになりますか」ということですが、「花子さんは」が主語、「本を」が目的語、「買う予定です」が全体で複合的な述語と見るのがいいと思います。ご質問の方、そういうことでお答えはいいでしょうか。

ホイットマン ありがとうございます。今の質問とその答えに関して一つ確認なのですが、人魚構文

を構文的に定義すると、その性質は何なのかというと、角田先生がおっしゃったように、やはり主語が全文の主語であるということです。単なる連体修飾ならば、「太郎が大阪に行く予定」とすると、そこで終わってしまうのですが、「太郎は明日大阪に行く予定です」と言うと、「太郎」が全体の主語となるのが一つの特徴だと思います。片桐先生のお話でも、金先生のお話でも、ブガエワ先生のお話でも、それぞれの言語では人魚構文といわれる言語に出てくる主語は、文全体の主語であることが明らかになっていたと思います。

河内先生のお話によると、私の理解が不十分だったのかもしれませんが、シダーマ語の場合には、主語と述語の標示と申しますか、その語尾のようなものがありますが、人魚構文の場合には、それが決まって三人称だとおっしゃったかと思えます。とすると、その三人称の標示は、主文に表れるものですか、それとも名詞の前の動詞に表れるものですか。

河内 主語は必ず名詞の前の動詞に接尾辞として現れますが、述語のマーカにも標示することができます。述語のマーカとして、今日は意識的に *=ti* しか使っていなかったのですが、実は *gara* 構文にしても、*=gede* 構文にしても、もう一つサブタイプがありまして、ほぼ意味は同じなのですが、述語マーカとして女性形の *=te*、また男性形の *=ho* を使う人魚構文の形式があります。人魚構文以外の文脈においては、一般に、修飾された名詞が述語である場合に *=ti* を使います。修飾されていない名詞が述語である場合には *=te*、または *=ho* を使います。

例えば「彼女は怒ったようだ」と言う場合、*ise* が「彼女が」、*hank'-it-ino* (怒る-主語:3人称.単数.女性-遠完結相.3人称) が「怒った」で、*ise hank'-it-ino = te*。「彼女が怒ったようだ」と *=te* を使うのです。*=ho* は使えないのです。ですから、主語

の性が主文の述語のマーカに標示されていると言えらと思います。

ホイットマン 分かりました。結論としては、人魚構文を示す四つの言語にも、日本語にも、主語が主文の主語であるという根拠が明らかにあるわけですね。ありがとうございます。

もう一つ、私あての質問がありました。個別発表に入る前に英語の変な例文をあえてお示しましたが、この英語の例文についてのご質問です。お答えする前に一つ申し上げておきますと、今日のフォーラムでは何度も「太郎は明日大阪に行く予定です」と出てきました。われわれの研究所の所長は太郎というお名前ですが、「太郎」を使ったのは意図的ではなく、日本語学者が例文を作るとき、一番典型的な名前を使うことが多いですね。男性の場合には「太郎」、女性の場合には「花子」となります。そういう意味で所長は少し不幸な面もあると言えるかと思えます。同じように英語となると、言語学の統語論の例文を作るとき、男性の場合にどの名前を使うかとういと、私の名前の「ジョン」なのです。ですから、その不幸は所長だけではありません。私も同じ不幸な立場にいるわけです。

さて、私あての質問は、「太郎は明日大阪に行く予定です」を英語に直訳すると、*be* 動詞を使ったのですが、「そういう英語の場合には *have* を使うべきではないか」という質問です。まさにそのとおりです。私が言った英語の文章では、*be* 動詞を *have* に直せば全く申し分のない英語になるわけです。Taro has a plan to go to Osaka. となります。「*be* 動詞と *have* の区別がない言語もたくさんあるではないか。日本語で『だ』『である』で締める文章は英語となると、簡単に *have* に直せば同じ構造ではないか」というご質問です。

それに関して、私は、特に日本語が母語の先生方一つ質問したいと思えます。日本語の人魚構文の場合にも「だ」「である」を「が～ある」に直せ

る場合もあるのではないかとことです。例えば、「太郎は明日大阪に行く気だ」は少し苦しいかもしれませんが、「君は明日大阪に行く気か」など質問のときに使うと思いますが、「太郎は明日大阪に行く気があります」とは言えないでしょうか。つまり、日本語の「である」が、「ある」に交替するようなものはないでしょうか。角田先生もこの辺のお考えもあると思いますが。

角田 「つもりがある」は多分言えますね。「太郎さんは明日大阪に行くつもりがある」。少し言いづらいいけれども、言えないことはないと思います。これはhaveではなくて、existです。だから、ご質問の趣旨と少し違うと思うのですが、「ある」だと、多分「存在する」という存在動詞ですから、所有動詞ではないので、そのままhaveには当てはまらないと思うのです。少し違うと思います。

ホイットマン 分かりました。ありがとうございます。

角田 例えば、「太郎さんにお金がたくさんある (Taro has lot of money)」これは「ある」がhaveを表すというよりも、「太郎さんにお金がたくさん存在する」という意味であって、訳せば英語のhaveになるだけのことだから、やはり「ある」をhaveと同じと見るのは、まずいと私は思うのです。だから、「だ」は、have構文とは違うと思います。

ホイットマン ありがとうございます。

もう一つ、各先生方に対する質問です。先ほど角田先生のお話の中で、人魚構文はそこで出てくる名詞部分にいろいろ種類があって、例えば「模様だ」「様子だ」、それから「計画」のようなものもあって、あまり意味がない「ことだ」「ものだ」などもあります。

今回の話を聞いていて、特に人魚構文の種類が少ない言語の場合に、気が付いたことは、タガログ語もそうですし、シダーマ語もそうだったので、そこにあった数少ない人魚構文の例としては、やはり「模様だ」「ようだ」というようなものが出てきま

した。そこから出てきた疑問ですが、「人魚構文の中に、あるいは人魚構文の分布に関しては、何らかの階層があるのではないか」ということです。もし人魚構文が一つの言語に存在するとすれば、「模様だ」「様子」「ようだ」のようなものがあり、その次に、また別の種類の名詞が出てくるというような一般化はないでしょうか。よろしくお願いします。

角田 宮地朝子先生に『万葉集』と平安時代における人魚構文を調べていただいています。平安時代の文学作品で、ちょうど現代語で「～している模様だ」「様子だ」というところを、「姿、形」という名詞を使っています。その仲間なのです。言えることは、もしある言語に人魚構文が存在したら、そこに表れる名詞には「様子」などのグループの名詞が出るだろうという一つの可能性はあります。もう一つは、やはり非常に一般的な「こと、もの、ところ」などが出やすい言語です。タイプが二つあるらしいのです。

琉球の伊良部の言葉を調べていただいた下地理則先生のご研究ですと、琉球の伊良部では、「はず」は一般名詞とは言いにくいけれども、「こと」「人」「ところ」など、非常に一般名詞が出やすいので、もしヒエラルキーがあるとしたら、2種類ある感じがしますね。非常に一般的な名詞が出やすいヒエラルキーと、「様子、模様」が出やすいものという、二つのタイプがある感じがしました。

ホイットマン ありがとうございます。そうしますと、その階層の中で一番珍しいといえますか、例文数が少ないものとしては、「予定だ」「つもりだ」などはどれぐらいの数の言語にあるのでしょうか。

角田 日本語の例文を挙げるときは、すぐ「予定」を取り上げてしまうのですが、いろいろな言語を見ると、「予定」と言える言語はそれほど多くはないですね。韓国語は言えますが、今日のシダーマ語でも、アイヌ語でも、タガログ語でもなかったですものね。だから、おっしゃるとおり、正確に幾つということとは分か

りませんけれども、「予定」を使える言語はそんなに多くはないのです。申し訳ございませんが、正確に数は言えません。

ホイットマン ありがとうございます。

今まで文法の言語学者が好むような話を延々とさせていただいて、ご聴衆の方から「言語学者は、よくもこういう文法を限りなく論じるものだ」と言われそうです。いただいた質問の中に、文化に関する質問も幾つかあったので、それに関して金先生、それからブガエワ先生にも、ひとつお話ししたいと思います。

金先生の場合には、今日のテーマと直接に関係がないと言いながらも、韓国語における人魚構文には、漢語で終わる、漢語で締める例文がたくさんあったのですが、その関係で、韓国語における漢字の使用に関する質問がありました。それに関して、ひとつご説明いただけますか。

金 多分、名詞の方に漢語がたくさん出てきたので、気になったかもしれませんが、韓国における漢字教育の実態について、何人かの方に聞かれました。私が小学校のときは毎朝、学校に行ったら新聞があって、そこで一文字ずつ漢字を勉強しました。中学校に入ったときは漢文という科目があって、いわゆる送り仮名を付けたりして、中国の漢文を勉強する科目がありました。

詳細は忘れましたが、ハングルを使う運動も韓国でありました。昔、韓国は植民地の名残で新聞の方も縦書きで漢字を併用していましたが、植民地の名残をなくそうという傾向もあって、すべてハングルで表記することになって、縦書きも止めて、新聞なども横書きに全て直しました。そうしますと、問題になるのは同音異義語です。例えば「今日の発表の感想を聞かせてください」の「感想」と、映画鑑賞の「鑑賞」があるのですが、すべて韓国語では「감상/kamsang」と言って、音が同じです。そのように、読んでいて文脈上分かりにくいと思われる単語に関してはまずハングルを書いた上で、括弧の中に漢字

を併記するような形になっています。

今現在、私は大学1年生にも教えていますが、高校でも漢字を勉強しているとは言っていました。ただし、自分の名前は書けるのですが、親の名前などは漢字で書けない人もいます。それから、私の名前は漢字がありますが、固有語に由来する名前をもつ場合も多くて、名前自体に漢字がない学生もたくさんいます。日本語ほどではありませんが、学校教育として漢字を教えることは教えます。ただし、実際に日本語のように書く機会はなかなかないので、漢字能力は非常に衰えているような状況です。

ホイットマン ありがとうございます。今の質問にも関連しますが、先ほどのお話にあったように、韓国語の人魚構文は、日本語と同じように漢語からなる例がたくさんあるということです。単純に考えると、表記から漢字をなくすれば、そういう単語もなくなるのではないかと思いがちかもしれませんが、言語学者として一つ申し上げたいことは、漢字と漢語は別なものだということです。文字を変えても漢語は残ります。

現在、韓国では漢字を公のところで使わないことになっていますが、私の印象なのですが、韓国語にある漢語、つまり由来が漢字語、もともと漢字があった単語で、中国語から借用された漢字由来の語彙が、数字で見ると、日本語における漢語より多いと思います。75%か80%と聞きますが、それはいかがでしょうか。そういう数字になるでしょうか。日本語より多いという印象は当たっていますか。

金 そうですね。漢語は確かに多いです。ただ、おそらくどれが漢語かということを若い人は意識していないと思います。例えば「感動」や「感想」などが漢語ということは分かるのですが、全ての名詞について「この名詞は固有名詞だ」とか、「これは漢字語だ」という意識はあまりないのではないかと思います。

漢字語には中国語から受け入れたものと、科目の名前などのように日本で英語を漢語に訳したものが韓国語に入ってきたものがありますね。「哲学」や

「英語」や「数学」といった単語は日本から受け入れて、それが普通に一般の生活で使われているので、多分、今の若い人は、意識はしていないと思います。

ホイットマン ありがとうございます。最後のご指摘はまさにそのとおりです。特に江戸時代に入ってから、日本に蘭学があり、英語の文献を漢文に訳すことが中国・韓国よりも盛んに行われたので、日本語から和製漢語、日本製漢語が韓国語や中国語に入ったものがたくさんあるわけですね。ありがとうございます。

もう一つ、表記に関する質問です。今おっしゃったように、漢字がなくなって、若い人たちは何が漢語なのか、何が純粹たる韓国語なのかの意識がなくなると、漢語で発音と同じ同音の言葉がたくさん出てきますが、そういう場合にはハンゲルの文章を見てどうやって分かりますか。日本語の場合には、漢語を全部仮名で書こうとすると随分読みづらくなる印象がありますが、韓国語の場合にはどうしますか。

金 例えば「今日の発表の感想を聞かせてください」の「感想」は「감상/kamsang」ですが、多分、前後の文脈から分かるということがあります。特に新聞記事の場合には括弧で漢字語併記されているので、これが「感想」なのか、例えば「鑑賞 감상/kamsang」なのかは、同じ発音でも漢字が違うので、漢字の表記を知っている人であれば、そこで見極めることができます。

漢字がない場合でも、その文を読んで、例えば「映画鑑賞」だったら、絶対に「映画」が付いているので、「鑑賞」です。「映画を見た感想を聞かせてください」と言ったら、多分それで「感想」だということが分かります。

ホイットマン 分かりました。ありがとうございます。もう一つ気が付いたのですが、日本語の仮名文と違って、ハンゲルの場合には、分かち書きをすることも助けになるのではないのでしょうか。

金 そうですね。日本語の場合、全部平仮名で書いてしまいますと、どこが助詞の「が」なのか、「を」なのか、というのが区別しにくくなってしまいます。留学生にとっても、最初は平仮名で書くのですが、どんどん学習のレベルが高くなるにつれて、むしろ平仮名で書くのがじゃまで、漢字語で書いた方がかえって読みやすい、分かりやすいということが、日本語教育分野で言われています。でも、ハンゲルは文字の作り方が違いますし、分かち書きをしますので、ハンゲルで書いても、日本語ほど混乱はしないですね。

ホイットマン ありがとうございます。

引き続き、アイヌ語に関して、言語と文化の関係でご質問があったかと思いますが、よろしくお願ひします。

ブガエワ 文化についての質問はありませんでしたが、日本語の起源についての質問がありました。「日本語の起源に興味があるのですが、最近の結論はどうか」という質問です。それから、「言語の起源を探るときに、人類学の結果とDNAの結果をどうやって使うか」という二つの質問がありました。

日本語の起源には、私も非常に興味を持っています。去年の7月に大阪で大きな歴史言語学会がありました。たまたま興味があって、そこに行ってみたのです。私自身がその問題から15年ほど離れていたもので、他の研究者の研究の結果を聞きに行きました。実はここにいらっしゃるホイットマン先生が歴史言語学の大家です。15年でどれくらい進んでいるか、結論を言いますと、まだ分かりません。ただ、最も有力な説は、相変わらずアルタイ説ではないかと思っています。アルタイ説はモンゴルの諸言語、そしてチュルクの諸言語、ツングースの諸言語と一緒にアルタイ語族を成していて、日本語、また韓国語もここに入っているのではないかという定説があります。でも、未だにかなり難しいです。

歴史言語学には、とてもきちんとした方法があり、

語彙の何%など、基礎語彙が少なくとも一致しないと、何の結論も出せません。大阪で多くの皆さんの発表を聞いても、何も結論がないので、影山先生から「日本語が孤独のようです。それだと少し寂しいので、少なくとも、仲間に韓国語ぐらいは入れてください」というご発言がありました。韓国語と日本語は、文法的に自動翻訳できるぐらい似ています。ただ、語彙のレベルではかなり難しいようです。もしかすると、アルタイ語族の中で、韓国語と日本語はもう少し距離が近いかもしれないという結論でした。

もう一つの説としては、もともと日本語はオーストロネシア語族から影響を受けているか、オーストロネシア語族の言語で、アルタイ諸言語から後に影響を受けている混合の説ですね。オーストロネシア+アルタイです。片桐先生が研究されている言語と金先生のご研究の言語の混合、その結果が日本語であるという説です。アイヌ語については分かりません。なぜかという、方言についてまだ十分に明らかになっていないためです。アイヌ語のように古い文献がない言語だと方言を調べるしかないのですが、方言の情報が完全ではないので、今は何も言えません。

もう一つのご質問、人類学などの結果をどのように使うかということについてですが、実は言語の起源と、民族性、どのような血を引いているかということは別物のようです。不思議なのですが。

一つの例を挙げたいと思います。私の母語はロシア語です。スラブ語族に属しています。スラブ語族は大きくは、インド・ヨーロッパ語族に属しています。スラブ語族のもう一つの言語に、ブルガリア語があります。ただ、典型的なロシア人とブルガリア人を比べてみると、顔がだいぶ違うと思います。ブルガリア人はあくまでもトルコ人に似た顔をしている人が多いです。ブルガリアはトルコのオスマン帝国支配下に置かれた時期がかなり長く、500年以上ありました。ですから、その遺伝子、DNAを調べてみると、

トルコ人と近い結果になります。でも、言語をみると、ブルガリア語とロシア語は非常に近いです。

ホイットマン ありがとうございます。今のブガエワ先生のご指摘を受けて、最後の質問にしたいと思いますが、角田先生に対する質問です。今のブガエワさんのお話で、言語の間の関係の一つとして、同起源、同じ語族に属するような関係があるということでした。例えば先ほどのブルガリア語とロシア語がそうです。もう一つの関係としては、河内先生のお話に出てきた言語地理学による考えで、言語地域という概念があります。

ブルガリア語が話される場所は、バルカンというのですが、西南ヨーロッパです。そちらに別語族の言語が幾つかありますが、語族の起源が違うのに特徴が非常によく似ているところがたくさんあります。このように、西南ヨーロッパが一つの代表的な言語地域としてよく知られていますが、もう一つは、河内先生がお話しされたエチオピア、東アフリカなのですが、そこも一つの言語地域だと言えます。幾つか全く起源が違う言語、あるいはほぼ起源が違う言語がたくさん話されていますが、文法・音韻、いろいろな特徴を見ると類似するところがたくさんあります。

人魚構文が20ぐらいの言語にあるとすると、一つの一般化になるかと思います。東北アジアには日本が当然入ります。韓国語も入ります。アイヌ語も入ります。シベリアの言語も入ります。今まで東北アジアを一つの言語地域として考える研究は多くありませんでしたが、角田先生の共同研究プロジェクトの中で、人魚構文その他の研究により、日本、韓国、ロシアのシベリアを含めた地域が、一つの言語地域として成り立つのではないかという可能性が出てきました。これが、今回の共同研究の一つの成果だと思いますが、先生はいかがお考えでしょうか。

角田 今のご質問とご指摘の他、こういう質問がありました。「人魚構文がある言語とない言語で、共

通の特徴がありますか。どうして、ある言語に人魚構文があって、ある言語にないのですか」。これに関係します。お話したとおり、今まで見たところ、人魚構文が見付かった言語のほとんどは、主語、目的語、そして動詞が最後の言語なのです。しかし、主語、目的語、動詞の順番なら、必ずあるかというところではなくて、アジアにたくさん言語がありますが、そのうち見付かったのは二十近くです。面白いことに、同じような語順を持った言語でも、隣の言語には人魚構文がないことがあります。だから、どういうところに人魚構文があるか、ないかを答えるのはなかなか難しいのです。特徴を見ても分かりません。

ホイットマン先生のご質問に戻ります。東アジアにどうも多いようで、日本語に見付かって、琉球諸語にもあって、アイヌ語にもあって、韓国語、シベリア南部のコリマ・ユカギール語、あとはモンゴル語にもあ

り、満洲語にもあるらしいです。中国語もあります。少し先に行って、チベット語などもそうです。どうも東アジア中心にこういう構文があるらしいのですが、先ほどお話したとおりに、いろいろタイプが違うのです。中国語などは主語、動詞、目的語の順番で、日本語と違うのです。それでもあります。ということで、どうも人魚構文は、日本語を中心としたアジア諸言語に共通の特徴なのではないかと思えます。

もしかしたら日本語とアイヌ語は、もともと起源の違う言語だったかもしれません。でも、こうやって近くになって、ずっといる間に、何らかの統語の影響を受けて、日本語、アイヌ語を含めて、この地域の言語が、こういう特徴を持つようになったという可能性があると思えます。ということで、お答えはいいでしょうか。

